神と仏と日本人

2026.3.14 一紅会
末木文美士

（壬生寺万灯会）

目次

0　はじめに
1　日本人は無宗教か？
2　神と仏の間がら
3　仏教と死者

（写真・早池峰神社山門）

はじめに

日本の仏教を研究すること　学問と現実
　仏教で何をイメージするか
複数の仏教Buddhisms
　インドの仏教と日本の仏教は同じ仏教か？
　　中国→朝鮮→日本　（漢文）
　インド→　チベット→モンゴル(チベット語)
　　スリランカ→東南アジア（パーリ語）

日本人の無宗教

「無宗教」と答える人　約６割
年齢・問いかた(「あの世を信じるか」「初詣に行くか」)で相違
宗教信者数（宗教統計調査令和６年度）

神道系	83,371,429	仏教系	81,069,419
キリスト教系	1,246,742	諸教	6,545,257
総計	172,232,847		

https://www.e-stat.go.jp/stat-search/files?page=1&layout=datalist&toukei=00401101&tstat=000001018471&cycle=0&tclass1=000001224160&tclass2val=0

なぜ「無宗教」なのか？

日常に「宗教」とか「信仰心」を意識しない
　宗教的な活動はするが、「宗教」の意識は持たない
　　年中行事・慣習(習俗)：初詣・墓参・仏壇に手を合わせる
　入門儀礼（洗礼など）や信仰告白などない
お寺にも神社にも行く　宗教の掛け持ち？
「宗教」の悪いイメージ　「宗教に凝る」
　オウム真理教・旧統一教会の悪印象　宗教二世問題
「宗教」という言葉の居心地悪さ

神社と寺院の使い分け（神仏補完）

神社ー慶事（生に関する）初詣、宮参り、七五三、祈祷
　氏神：土地（地域）に関係　氏神ー氏子
　神社統合により統廃合
　穢れを忌む　ハラエ（祓）
寺院ー凶事（死に関する）葬儀、墓の管理(葬式仏教)
　菩提寺：イエに関係
　　修行寺院（例、永平寺）観光寺院（例、金閣寺）
　　祈祷寺院（例、新勝寺）檀家寺院（菩提寺）
　祈祷寺院はほぼ神社と同じ役割をする

「宗教」という言葉

「宗教」＝religion もとは仏教語だが、ほぼ翻訳語
　明六社（津田真道など）・島地黙雷らにより定着
　キリスト教（プロテスタント）がモデル
　　明確な信仰：かけもちできない
　　政教分離：宗教は内心の問題
　　儀礼・習俗の無視
　　浄土真宗と親和的　密教と対立的
　　浄土真宗は明治初期に政治的にも大きな発言力
　　長州は浄土真宗（西本願寺）の地盤

島地黙雷（1838-1911）

長州出身
西本願寺派（現在の浄土真宗本願寺派）
　勤王僧として活躍
　欧州視察（1872）　宗教制度を学ぶ
　信教の自由の確立
　　宗教ハ尚ホ女ニ一夫アルガ如ク、
　　其二ヲ並ブベキ者ニ非ズ。安心立命、
　　死生ヲ托スル所（「三条弁疑」）
　神道は宗教としては原始的、皇室の先祖崇拝

（図はWikipedia）

その後の「宗教」

法制用語・学術用語として用いられる
　憲法における信教の自由と政教分離
　　（帝国憲法第28条・戦後憲法第20条）
　宗教法人法（戦後）⇦　宗教団体法（戦前）
　　単位宗教法人(寺院・神社)・包括宗教法人(宗派)
　　税制上の優遇　届け出制
一般社会の用語としては定着せず
　否定的ニュアンス

神道非宗教論

「宗教」概念を使いにくいもう一つの理由
明治維新後、神道国教化をはかる
　神祇官復興⇒島地黙雷らの反対で失敗
　神道は信教自由・政教分離の枠外(国家神道)
　　皇室の祖先を祀る儀礼
　神社の宗教活動禁止　×葬式(神葬祭)　○結婚式
第二次大戦後
　神道の宗教化　神社本庁
　津地鎮祭訴訟　最高裁判決（1977）　慣習的行事

「神道」は日本固有の宗教か？

神仏関係に関する誤解
　古代神道(純粋)→神仏習合(不純)→神仏分離(純粋)
　　仏教
実際の神信仰は仏教が入ってから自覚され整備
　古代　神社と祭祀（神祇令→延喜式）
　中世　神仏習合（本地垂迹）→神道理論の形成
　近世　国学（本居宣長）→神道の宗教化（平田篤胤）

今日の神社

今日の神社や神道は近代になって大きく変化
　神仏分離による神社の独立
　　近世まで神社は原則的に寺院の支配下（別当寺院）
　　神社統合　新しい祭神の設定
　新しい神社（顕彰神）勤王の志士・武神・大名・天皇
　　湊川神社・靖国神社・大名神・橿原神宮・明治神宮
　　武田神社は大正8年（1919）創建

日本の神

神とは――何にまれ、尋常（よのつね）ならずすぐれたる徳（こと）のありて、可畏（かしこ）きもの（本居宣長）

＊非日常性、畏れ尊ぶべきもの

古い神信仰のあり方

シャーマニズム　ヨリシロ・ヨリマシ

ヨリシロは特殊な樹木・岩・動物（蛇・猿）等

ヨリマシ型→神がかり（イタコ・ノロ）

×アニミズム

万物に霊性を認めるのは仏教が入ってから

さまざまな神

古代祭祀に由来

大神神社・賀茂神社

祖先神

皇祖神中心に体系化（記紀）

習合神　八幡・稲荷

御霊神（天満宮・祇園）

神泉苑における御霊会(863)

祇園　牛頭天王・蘇民将来

英雄神　豊国神社・東照宮

（写真上・上御霊神社、下・北野天満宮瑞饋祭）

八坂神社と祇園祭（ちょっと一息）

仏教の死生観

三世の因果

「業」(カルマ)によって輪廻

自業自得

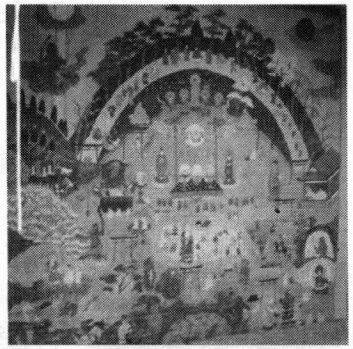
…⇒前世⇒現世⇒来世⇒…

善業⇒幸福な境涯(楽)

悪業⇒不幸な境涯(苦)

輪廻する範囲（六道）

地獄・餓鬼・畜生・修羅・人・天

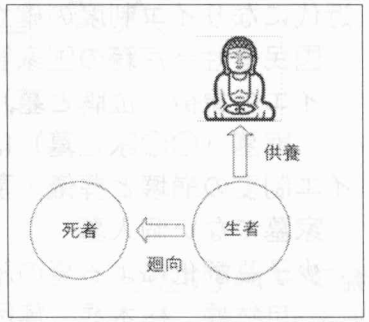


（珍皇寺・十界曼荼羅図）

輪廻からの解脱＝涅槃

死者の供養

廻向（回向）
　死者供養を可能とする理論
　　本来自業自得なのに、
　　他者に功徳を回す
　　善行　仏に対する供養
　　（読経・供物）
　中陰（中有）
　　次の生が定まるまで49日
　　次第に廻向の期間が増える
　　一周忌・三回忌・…



葬式仏教の可能性

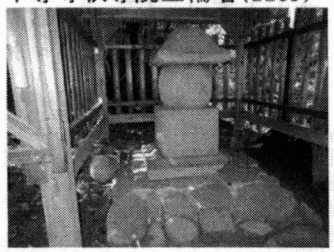
穢れと忌み　古代寺院は死者を忌む
　死者は都市の周辺に放棄
　　平安京周辺　鳥辺野・化野・
　　蓮台野
穢れを乗り越える力
　死者に接すること可能
　強力な仏法の力（呪力）
　　戒律・禅定・念仏

（図は一遍上人聖絵模本５・国会図書館デジタルライブラリー）

死者供養の塔・墓標

ストゥーパ（塔・卒塔婆）
　ブッダの遺骨（舎利）納入
　　信者の巡礼の場所となる
　さまざまな塔
　　中国　阿育王塔、大雁塔
　　日本　五重塔、五輪塔
　　板卒塔婆
五輪塔の思想（覚鑁）

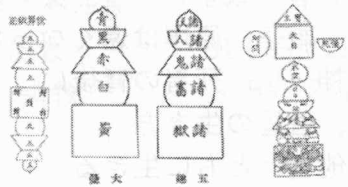
中尊寺釈尊院五輪塔（1169）



五輪思想と死者／生者

五輪
空　kha 脾臓　中央
風　ha　腎臓　北
火　ra　心臓　南
水　va　肺臓　西
地　a　肝臓　東
身体＝宇宙＝仏
即身成仏の世界
死者の世界にも通ずる

五輪塔思想の多面性（覚鑁）



覚鑁『五輪九字明秘密釈』（大正蔵79：13）

葬式仏教の形成

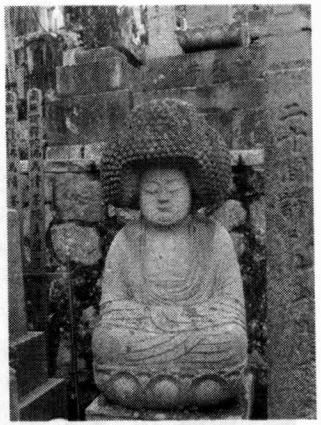
近世の寺檀制度　住民の生者と死者の管理
　寺請制度　キリシタン禁制と戸籍管理
　　宗旨人別帳（宗門人別帳）と過去帳
葬儀については、禅宗の方式が普及
　尊宿喪儀法
　亡僧喪儀法⇒在家者に適用（授戒→引導）
　戒名　授戒の時に授ける法名
幕末には、神道が独立するために神葬祭の方式を模索

葬式仏教の変容

近代になりイエ制度の確立
　国民皆姓⇒戸籍の国家管理、家父長制度のイエ
　イエの象徴（位牌と墓）は仏教が管理
　　家墓（〇〇家之墓）は近代以後
イエ制度の崩壊と葬儀・墓の変容
　家墓でない個人墓
　少子高齢化による墓の維持の困難　墓じまい
　　自然葬、樹木葬、集団墓、家族葬、直葬

これからの神仏（最後に）

1、見えざる世界（冥）の重要性
　（⇔顕）
　死者　戦争の死者、災害の死者
　　戦争・原爆は遠くなったか？
　神・仏　死者の背後に
2、菩薩の生き方
　他者とともに生きる
　現世だけで終らない関わり



（図は金戒光明寺・五劫思惟阿弥陀仏）

ご清聴有難う ございました

【もととなる拙著】
『日本仏教史』（新潮文庫）
『日本宗教史』（岩波文庫）
『日本仏教再入門』
（共著、講談社学術文庫）